

2007 年 10 月 10 日

～プラスチック原料を年間に約 570t 削減～ 弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に変更 -食材内容が鮮明になり、弁当の見易さ、選びやすさも向上-

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者＜COO＞山口 俊郎）は、環境負荷の低減および弁当の見た目や選びやすさの向上を目的に、本年 11 月以降順次、セブン-イレブンで販売する弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に順次変更いたします。

包装形態の変更を進めるにあたり、本年 3 月よりテストを重ねてまいりました。配送中の荷崩れや売場での安定陳列等に対応する為、容器の変更やテープの改善を行った上で、このたびの弁当簡易包装の実現にいたしました。現在一部エリアで実施しているテスト結果を踏まえ、07 年度中にはセブン-イレブン全店（9 月末現在 11,837 店舗）での導入を予定しております。

これにより、プラスチック原料を年間に約 570t 削減することが可能になり、レジ袋に換算すると現使用量の約 5%削減と同等の効果が見込まれることとなります。

セブン-イレブン・ジャパンでは、環境問題対策等の社会的責任を遂行するとともに、安全・安心を第一とした商品開発を推進してまいります。



<変更前>

ラップ（フルシュリンクラップ）包装

<変更後>

テープ止め のみ

＜新包装形態の弁当について＞

- ◇内 容 弁当の包装形態を、現状の“ラップ（フルシュリンクラップ）包装”から『テープ止め』へ変更
- ◇目 的 ○環境負荷を低減
○弁当の見易さ、選びやすさとともに、手作り感、できたて感を訴求
○“コンビニ弁当はゴミが多い”というお客様のイメージを改善
- ◇対応事項 ①**容器・テープの構造を改良**
⇒レンジアップした際に蒸気を逃がす蒸気弁、フタと容器を止めるテープの構造を見直すことで、密閉性を確保
- ②**フタと容器（受皿部分）の構造を改良**
⇒フタと容器のかみ合わせ部分の構造を改良し、密閉性を向上
- ③**弁当容器のフタと底面の形状を変更**
⇒容器のフタと底面に凸凹をつけ、上下がかみ合うように容器することで、配送効率を改善し、売場での陳列のし易さを追求
- ④**配送時の工夫**
⇒弁当と弁当の間におにぎりを挟む等、弁当配送用ケースへの詰め方を工夫し、安定感のある配送を実施
- ◇環境負荷低減 ○今回の取り組みにより年間約 570t のプラスチック原料を削減
レジ袋 5%削減と同一効果に
- ◇今後の展開 2007 年度中にはセブン-イレブン全店での展開を予定
⇒11 月以降、順次展開予定
※現在、山梨県・千葉県の間総エリアの合計約 370 店舗でテスト展開を実施

以 上